

川前小

生産者・手作り給食に感謝



これがイチオシ

楽しい「やしおまつり」

川前小学校は年に一度、「やしおまつり」を開きます。当日は学校中に多くの店が並び、個性と笑顔があふれています。どの店でも、みんなの意見を大切に話し合い、面白さやクオリティを重視して準備をしています。本番では、みんなの「楽しい!」という声や笑い声が響き渡ります。

先生たちも驚くようなアイデアと、みんなで楽しもうという思い。やしおまつりは川前小に欠かせない最高の行事です。これからも想像を超えるアイデアで盛り上げてほしいです。

学校名 仙台市立川前小学校
所在地 仙台市青葉区芋沢赤坂16
創立 1951年
電話 022(394)2225
校長 大崎めぐみ
児童数 447人

お昼が近づくくと、校舎中にいい匂いが漂ってきます。川前小学校が大切にしていることは「食」です。その中から三つの取り組みを紹介いたします。一つ目は、学校の調理室で作る手作りの給食です。栄養教諭の先生が栄養バランスや旬の食材、地場産品、安全安心など五つのポイントを考へて献立を作っています。6年生は卒業前に「バイキング給食」があり、最高の思い出とともに卒業できます。二つ目は、10年以上続くみそ作りです。作物の

食の大切さふれて体感



卒業前の「バイキング給食」の様子
編集委員 大村優恵、斎藤聖、鈴木颯太、高橋飛羽、水田遙香(3月卒業)、相沢うらら、薄井愛柳、角由喜歩、佐藤小葉、鈴木心華、鍋島耕、三浦那月(6年) 指導教員 青島亞矢子

わが校わがまち スクール通信



今回は 城南小(多賀城市) 栢江小(仙台市)

甘みや塩味 班ごとに違い

津谷小



これがイチオシ

「なかよし池」再生計画

津谷小学校には「なかよし池」という池があります。池を調査したら、条件付特定外来生物指定のアメリカザリガニが増え過ぎて水が汚れ、他の生き物が生息できない環境になっていることが分かりました。

そこで池を再生するため、4年生全員で池の水を抜いて掃除し、捕まえたアメリカザリガニを飼うことにしました。きれいになったなかよし池には地域に生息する生き物や水草を入れ、みんなを笑顔にするような自慢の池にしていきたいと考えています。

学校名 気仙沼市立津谷小学校
所在地 気仙沼市本吉町津谷松岡126
創立 1873年
電話 0226(42)2613
校長 畑山 和浩
児童数 187人

5年生によるみそ作り

津谷小学校では毎年、5年生が「みそ作り」に取り組み伝統があります。みそはこうじと大豆を混ぜて仕込み、長い時間をかけて発酵させて作る日本の伝統的な食品です。最初に軟らかくゆでた大豆に米こうじ、塩、煮汁を加え、すり鉢やミキサーを使って丁寧にすりつぶします。仕込みの際は、班ごとに塩やこうじの量を少しずつ変え、味の違いが出るように工夫しました。その後は発酵の様子を見守りながら、「切り返



5年生による「みそ作り」体験の工程。(左上から時計回りに)ゆでた大豆のあくを取る、大豆をつぶす、完成したみそ、完成したみそをかき混ぜる
編集委員 菅原実莉、米倉京楓、小野寺桃香、小野寺陽那(3月卒業)、千葉太鳳、三浦愛、佐藤蓮夏(5年) 指導教員 大場怜也、田中美穂

夢に向かい進む道を選択

『乳牛コンテスト出品牛 全国版カタログ』を楽しそうに見ている夢生は、ファッションよりも牛に興味がある宮城県竹雀農業高校2年の少女。シングルマザーの母親に負担をかけないようにと選んだ高校で、牛の瞳に魅せられ、実習用の乳牛の世話をする「牛部」に入部します。

子牛の誕生に立ち会ったり、食肉処理場に牛を見送ったりと命と向き合う生活をするうちに、牛と一緒に働いていきたいという夢の実現に向け、大学に進学したいと思うようになりま

す。高校受験は、将来の夢の入り口に自分一人ですつこともできません。でも、目指す将来の夢が変わることもあります。そんな時、夢生のように自分の気持ちにまっすぐ向き合っ進む道を選択し、将来の夢に向かっていきたいと思える物語です。

登場する人物の名前や、高校名にもぜひ注目してみてください。宮城県に住む皆さんなら楽しいと思いますよ。中学生から。 (仙台市若林図書館 鎌田美穂)

ミルキーウェイ 竹雀農業高校牛部

堀米 薫 著 新日本出版社



本のプロ 推しの一冊



児童と住民心地よい汗

七ヶ宿でグラウンドゴルフ大会

七ヶ宿町七ヶ宿小(児童50人)で、全校児童と地元住民が交流する恒例のグラウンドゴルフ大会があった。児童もお年寄りも好成績を目指し、校庭で心地よい汗を流した。お年寄りを中心とした町グラウンドゴルフ協会の会員らと児童がグループに分かれてプレイ。児童は真つすぐボールを転がすコツを会員に教わり、クラブを振った。参加者みんなで打球の行方を追い「うまい」「惜しい」と声をかけ合った。ホールインワンを記録した6年の大津明さん(11)は「とてもうれしい。気持ち良かった」と笑顔。「(会員は)みんな上手だったので、自分も頑張りたいと思った」と振り返った。大会は2014年度に関小と湯原小が統合し、新たに七ヶ宿小が関小校舎に開校したのがきっかけで始まった。町内全域の住民と児童が交流する場として続けられている。大会は5月25日に開催された。会長の梅津輝雄さん(82)は「健康とコミュニケーションづくりはありがたい。子どもとの交流は力になる」と話した。(6月3日朝刊より)



会員(左)からアドバイスを受けながらクラブを構える児童